

ぞれの組織の取り組みに「テコ入れ」ができるからである。

こうした評価計画部分を母子保健計画の見直しの際に検討しておくことが望ましいが、見直しの作業が膨大になりすぎるのが難点である。こうした評価計画の検討は、策定後の進行管理組織で進めることを明記しておくことも一方であろう。これは、単に見直しにかかる作業量を軽減するだけでなく、策定が終わって、計画の推進を「終わり」にしないための工夫でもある。前回の母子保健計画の策定後、毎年、事業の評価を行っていたのは、27.6%でしかなかったが、毎年、評価を行いながら進行管理をするための仕掛けを、策定の段階で用意しておくことが重要であろう。

⑦ 住民参加とエンパワメント

保健計画の策定に住民や関係者を巻き込むことの大切さはいうまでもないが、巻き込まれたことで、住民や関係者がエンパワメントされ、その後の取り組みが推進されることが重要である。前回の母子保健計画の策定においても、住民や関係者が策定組織に参画した自治体は少なくなかったが、はたしてどれだけの住民や関係者がエンパワーされたのだろうか。こうした実態については、今後の研究が待たれるが、計画策定に参画する以上は、計画策定の意義や地域の課題、計画策定と推進における自分の役割が明確になることが求められよう。前回の母子保健計画策定に伴い、策定に関わる人を対象にした研修会を開催した自治体は8.7%とごく一部の自治

体に限られていた。こうした研修会の開催に向けての保健所の支援も重要であろう。

8) 母子保健計画の進行管理のために

前回の母子保健計画では進行管理や評価について記載されていたにもかかわらず、実際には、乳幼児健康診査をはじめとする母子保健事業で得られる情報をもとに、進行管理を行っていない自治体も目立った。

乳幼児健康診査の間診内容を集計している自治体は40.8%であったが、その集計結果の年次推移を見ているのはそのうちの74.6%で、他自治体と比較しているのは37.7%であった。こうした結果より、間診内容の集計から地域の母子保健事業の評価ができていない自治体はまだ少ないと考えられる。前回の母子保健計画の策定に際して、間診票を見直した自治体は36.0%であったが、今回の見直しにおいても、母子保健計画に盛り込まれた目標が達成されつつあるのかを評価できる間診項目を盛り込むべく、間診票の見直しが必要であろう。この際、地域比較が可能になるよう、保健所管内、あるいは、県内での間診項目の統一も望ましい。既に沖縄県や島根県ではこうした間診項目の集計により、評価を可能にする仕組みが整備されており、他県の範となる。

D. 結 語

1) 母子保健計画策定後、毎年の母子保健事業の評価を行っている自治体は27.6%と少なく、乳幼児健康診査の間診等、事業によって得られる情報を評価に活かすことが必要である。

2) 「健やか親子 21」関連事業のうち、実施率が高かったのは、子育て支援、予防接種率の向上、虐待対策、障害児の支援、乳幼児の事故防止であった。それぞれの事業の取り組み率は都道府県により大きく異なり、虐待対策、事故防止、思春期の精神保健、未成年者の喫煙対策、性感染症予防で特に格差が大きかった。

3) 2,702 自治体のリンケージ分析から、計画策定への庁内他部局や関係機関、住民組織、親代表の参画、ニーズ調査の実施は、既存の母子保健事業の変化や「健やか親子 21」関連事業の実施、関係機関との連携の推進、住民のエンパワメントと有意な関連を認めた。

4) 計画策定における関係資料の提供や策定委員としての参画、計画策定に関する研修会の開催、首長や幹部職員への説明、策定組織の運営への支援、ニーズ分析への支援といった県型保健所の支援は、いずれも有効であったが、首長や幹部職員への説明、策定組織の運営への支援、ニーズ分析への支援は提供可能な保健所が4割と少なかった。また、策定後の進行管理、特に、乳幼児健康診査等で得られる情報に基づく評価への支援が、必要と考えられた。

5) これらの結果を踏まえて、母子保健計画の見直しに向けてのポイントとして、以下の6点を提言した。

- ①前回の母子保健計画や「健康日本 21」との整合性を考慮した領域の設定
- ②目標を住民や関係者を共有するための手順とワークシート
- ③数値目標についての考え方と設定方法

④目標と各事業との関連を整理するためのワークシート

⑤評価計画の策定方法と策定期間

⑥計画策定を通しての住民や関係者のエンパワメントのポイント

6) 母子保健計画の進行管理には、乳幼児健康診査をはじめとする母子保健事業の中で、評価指標についての情報を収集する仕組みづくりが不可欠であり、計画策定に伴い、乳幼児健康診査の問診票の見直しを、管内市町村もしくは県下の市町村の協働作業で進めることが望まれる。

E. 研究発表

著書

- 1) 藤内修二, 岩室紳也: 新版保健計画策定マニュアル. ライフサイエンスセンター, 横浜, 2001.

論文

- 1) 尾島俊之, 他: 乳幼児健康診査における問診票の効果的活用に関する研究. 域環境保健福祉研究 (印刷中)

学会発表

- 1) 藤内修二, 他: 地域における「健やか親子 21」の推進に関する研究 (第1報) - 市町村母子保健計画の見直し -. 第60回日本公衆衛生学会 (高松市) 2001.
- 2) 岩室紳也, 他: 地域における「健やか親子 21」の推進に関する研究 (第2報) - 思春期保健評価指標の考え方. 第60回日本公衆衛生学会 (高松市) 2001.
- 3) 藤内修二, 他: 地域における「健やか親

- 子 21」の推進に関する研究（第3報）－市町村の取り組みの実態－. 第61回日本公衆衛生学会（さいたま市）2002.
- 4) 糸数公, 他: 地域における「健やか親子 21」の推進に関する研究（第4報）－母子保健事業における評価指標についての情報収集の実態－. 第61回日本公衆衛生学会（さいたま市）2002.
- 5) 犬塚君雄, 他: 地域における「健やか親子 21」の推進に関する研究（第5報）－市町村母子保健計画の見直しにおける都道府県型保健所の役割－. 第61回日本公衆衛生学会（さいたま市）2002.
- 6) 福島富士子, 他: 地域における「健やか親子 21」の推進に関する研究（第6報）－乳幼児健康診査における問診票の効果的活用に関する研究－. 第61回日本公衆衛生学会（さいたま市）2002.
- F. 文 献
- 1) 藤内修二: 市町村の母子保健計画の評価に関する研究. (平成10年度厚生科学研究「母子保健施策の効果的な展開に関する研究」)
- 2) 福島富士子, 北川定謙, 高野陽, 他. 市町村母子保健計画の数量的分析. 日本公衆衛生雑誌 2000; 47(2): 162-170.
- 3) 笹井康典: 保健所の今後の母子保健活動のあり方に関する研究. (平成6年度厚生省心身障害研究「市町村における母子保健事業の効率的実施に関する研究」) 1995.
- 4) 藤内修二, 岩室紳也: 藤内&岩室の新版保健計画策定マニュアルーヘルスプロモーションの実践のためにー. ライフ・サイエンス・センター, 横浜, 2001.
- 5) 大分県玖珠町: 童話の里くす健康21計画「わたしらしく健やかに」, 2001.

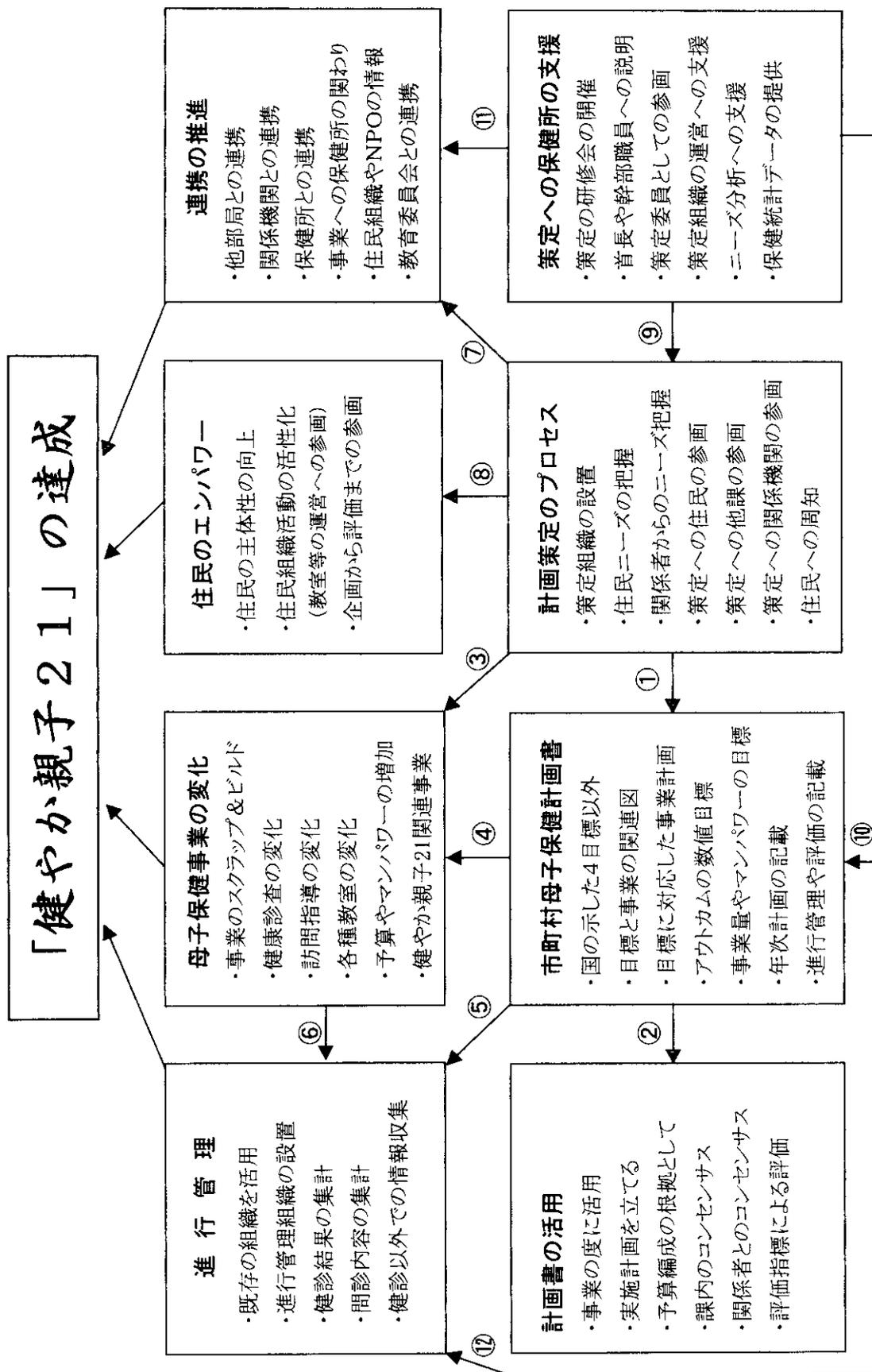


図1 分析のフレームワーク

図2 問診内容の集計をしている自治体の割合

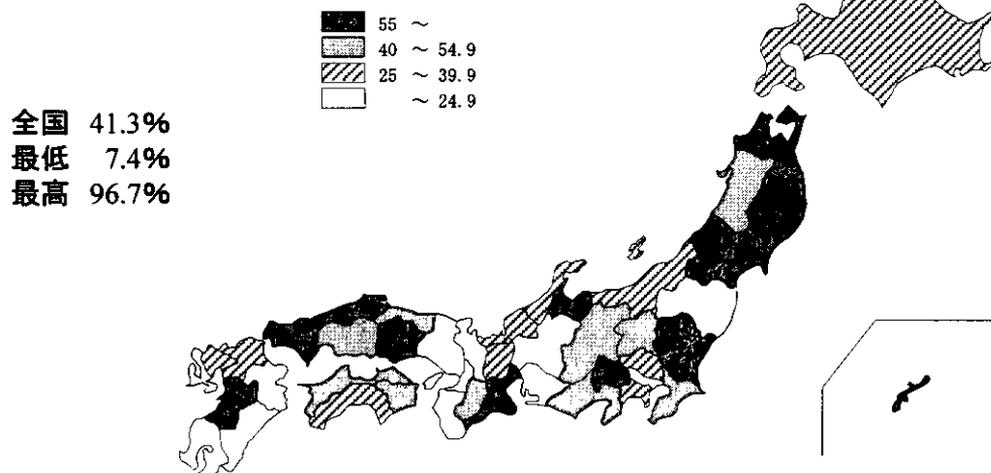


図3-1 子育て支援に取り組む自治体の割合

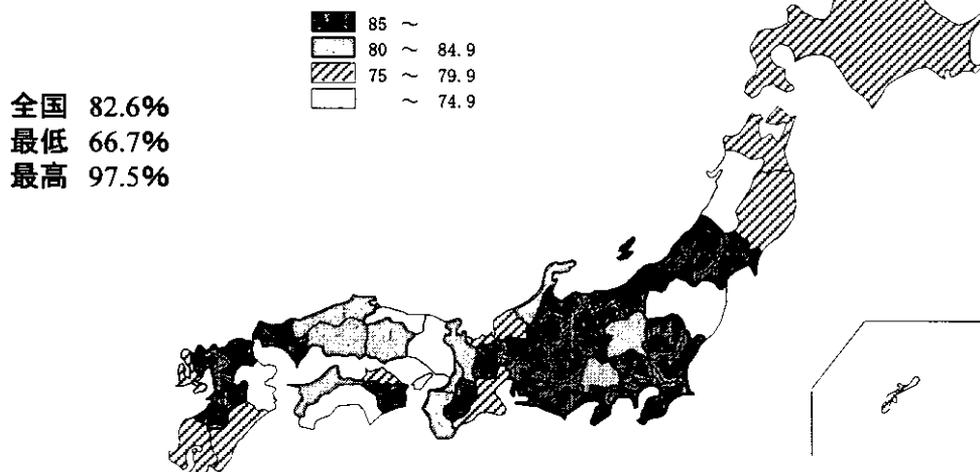


図3-2 予防接種率向上に取り組む自治体の割合

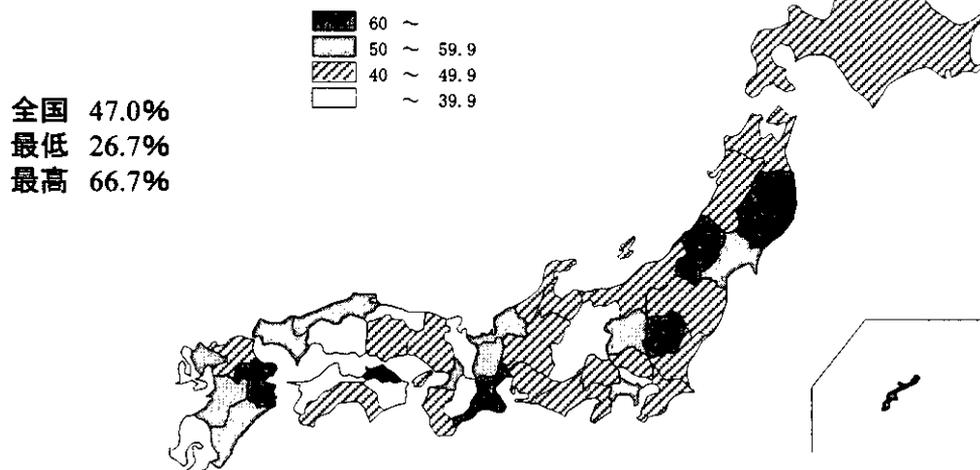


図 3 - 3 虐待防止に取り組む自治体の割合

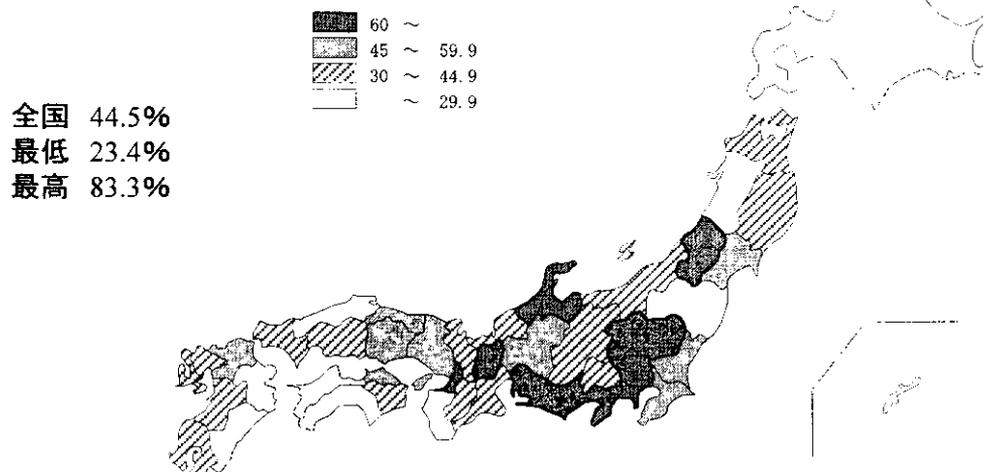


図 3 - 4 障害児支援に取り組む自治体の割合

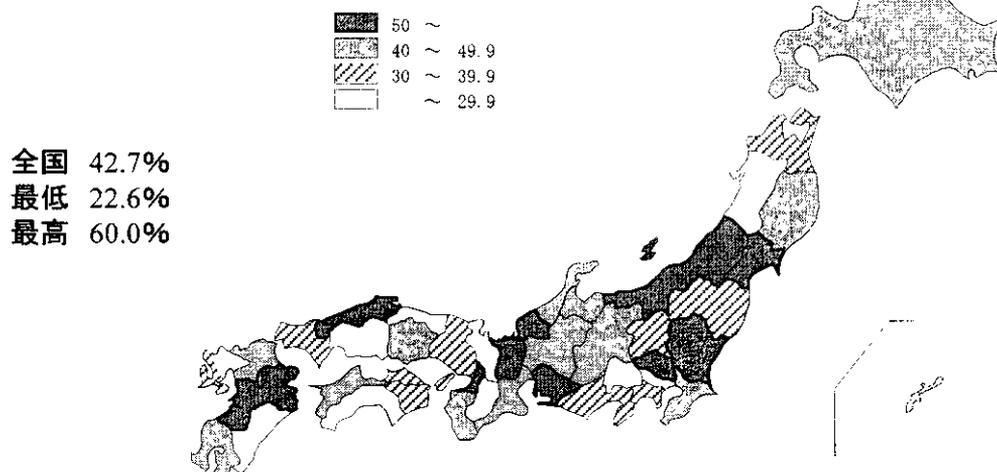


図 3 - 5 事故防止に取り組む自治体の割合

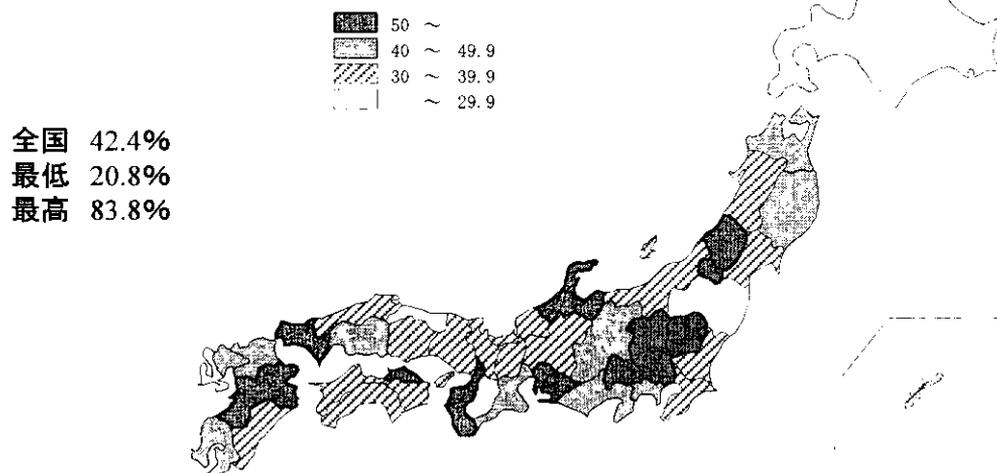


図3-6 思春期の精神保健に取り組む自治体の割合

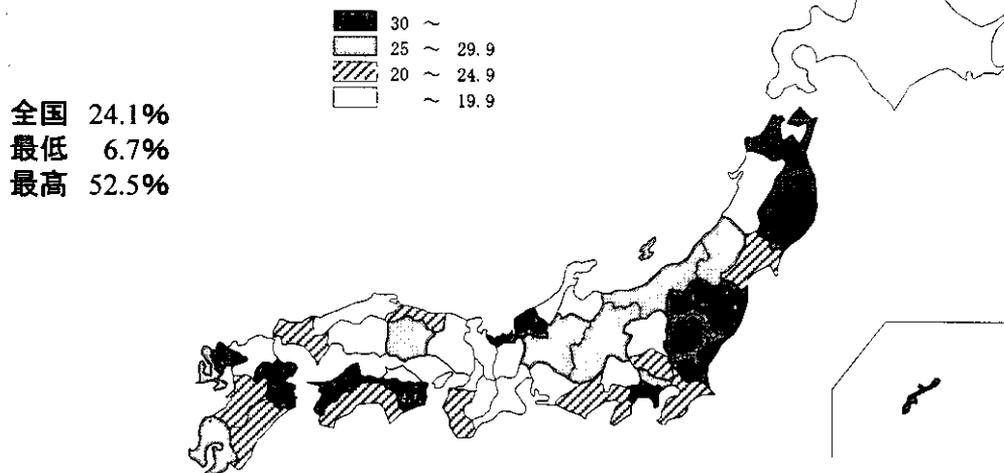


図3-7 喫煙防止に取り組む自治体の割合

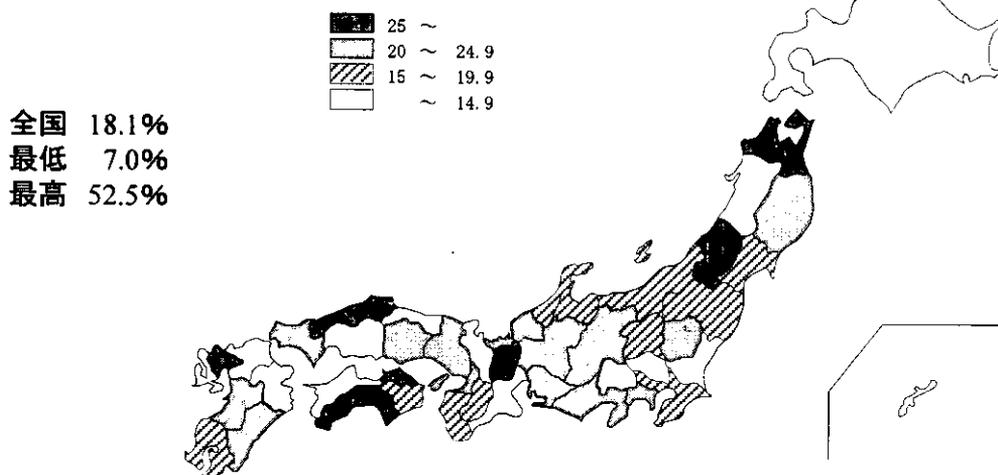


図3-8 性感染症予防に取り組む自治体の割合

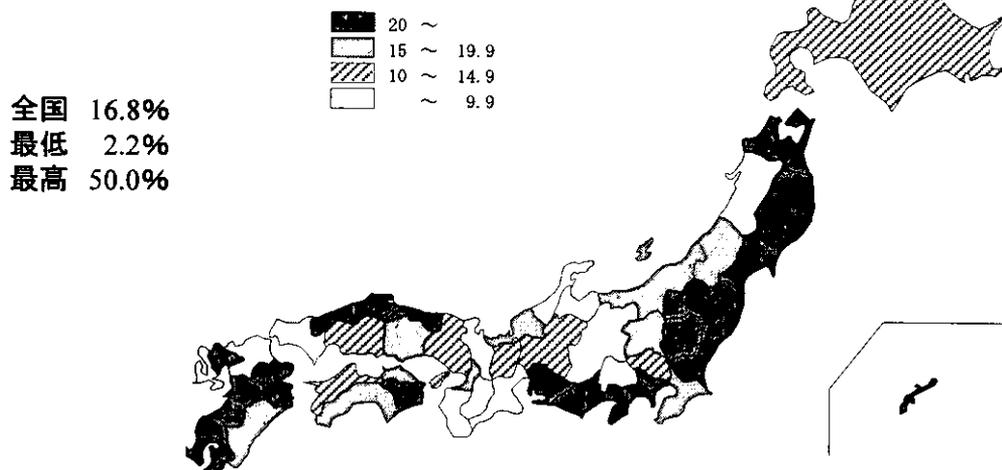


図3-9 未成年者の飲酒対策に取り組む自治体の割合

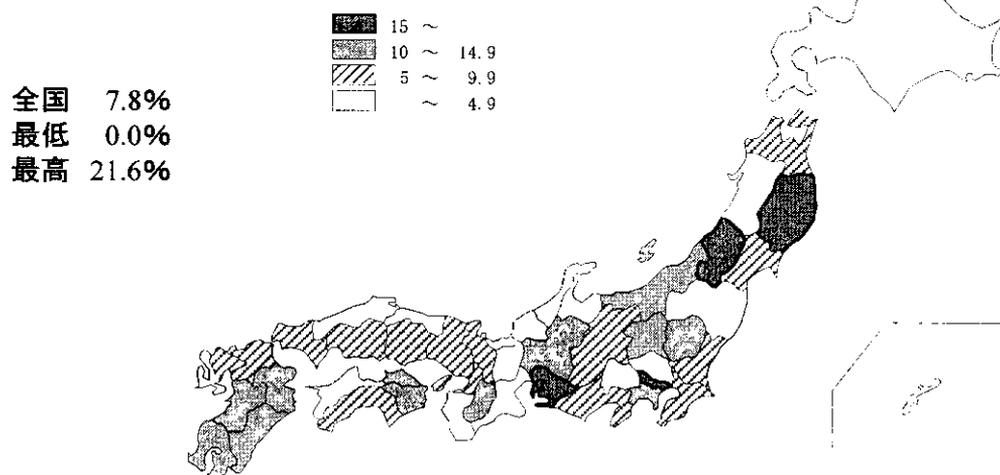


図3-10 薬物乱用防止に取り組む自治体の割合

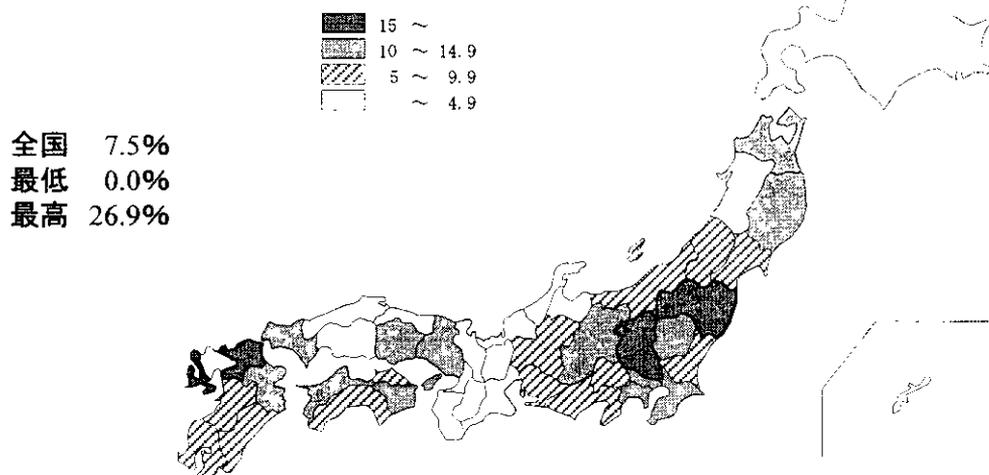
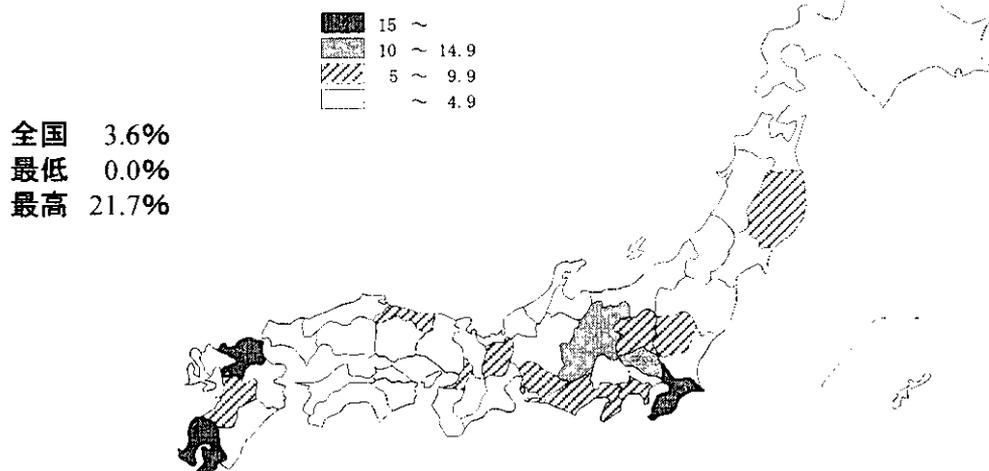


図3-11 小児救急医療対策に取り組む自治体の割合



乳幼児期の指標

| 領域 | QOLと健康指標 | 行動と生活習慣の指標 | それを達成するための条件 |
|--------|--|---|---|
| 食生活・栄養 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの食事のことで不安を感じている母親の割合 適正体重児の割合 BMIが15～18 (3歳児健診) | <ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べる 主食・主菜・副菜が毎食そろっている 好き嫌いが無い 離乳食が適切に与えられる 家族そろって食事する 間食の時間を決めている 間食の回数を1日に2回以内にしている | <ul style="list-style-type: none"> 朝食から主食・主菜・副菜が必要だと思う 20分程度で蛋白源と野菜を含む献立を作ることができる 家族が家事に協力してくれる 偏食をなくすための工夫について学習する機会がある 離乳食について学習する機会がある 家族そろって食事をするのが大切だと思う おやつについて学習する機会がある |
| 運動 | <ul style="list-style-type: none"> 夜9時半までに就寝する3歳児の割合 | <ul style="list-style-type: none"> 体を使った遊びを毎日している児の割合 子どもとスキンシップを持つ父親の割合 | <ul style="list-style-type: none"> 体を使った子どもとの遊びについて学ぶ機会がある 安心して遊ばせられる公園や児童館等が身近にある |
| 心の健康 | <ul style="list-style-type: none"> 育児を楽しんでいる母親の割合 子どもがなついていると思う母親の割合 育児に不安を感じている母親の割合 虐待しているのではと思う親の割合 地域の保育サービスに満足している | <ul style="list-style-type: none"> ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある 父親が育児に参加する 父親が子どもと一緒に遊ぶ 保育サービスを利用している | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長や発達について学ぶ機会がある 気軽に相談できる仲間がいる 育児についての相談窓口を知っている ストレスを解消する趣味等を持っている 延長保育、病児保育、一時保育など育サービスが地域で利用できる |
| 歯科保健 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの歯で、困っている母親の割合 3歳児の虫歯保有率 3歳児の平均虫歯数 正しい咀嚼方法を獲得している児の割合 | <ul style="list-style-type: none"> 1歳前後で断乳している 親が仕上げ磨きをしている フッ素塗布を行っている 適切な食事(おやつを含む)を選ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 適切な断乳の時期や方法について知っている 仕上げ磨きについて学ぶ機会がある 虫歯対策に祖父母の協力が得られる 身近でフッ素塗布ができる |
| 事故対策 | <ul style="list-style-type: none"> 安心して遊ばせられる母親の割合 事故による死亡件数(5歳未満) 事故による受療率 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭で事故防止対策を実行している チャイルドシートを使用している うつぶせ寝をしない 乳幼児のいる部屋で喫煙しない | <ul style="list-style-type: none"> 親が事故対策について学ぶ機会がある 乳幼児突然死症候群について学ぶ機会がある チャイルドシートが容易に利用できる 親が救急蘇生法について学習できる |
| 保健医療 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の小児医療に満足している 乳幼児健康診査に満足している 麻疹に罹患する子どもの数 小学校1年生のツ反の陽性率 | <ul style="list-style-type: none"> かかりつけの小児科医を決めている 乳幼児健康診査を必ず受診している 麻疹の予防接種を1歳6か月までにする BCG接種を1歳までにする | <ul style="list-style-type: none"> 身近に小児を診てくれる医療機関がある 育児支援に重きを置いた乳幼児健康診査である 身近で個別に予防接種が受けられる BCG接種の機会が年間に複数回ある |

学童・思春期の指標

| 領域 | QOLと健康指標 | 行動と生活習慣の指標 | それを達成するための条件 |
|-------------|--|--|---|
| 食生活・栄養 | <ul style="list-style-type: none"> 食事時間が楽しいと感じる者の割合 朝御飯がおいしいと感じる者の割合 朝、体がだるいと感じる者の割合 適正体重者の割合 骨折する児童数 | <ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べる 主食・主菜・副菜が毎食そろう おやつを適正にとれる 1日に1回は家族で食事をする | <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒が食生活について学ぶ機会がある 母親が栄養と食事について学ぶ機会がある 自分に必要な食事(おやつを含む)を選択できる 学校保健委員会等で児童・生徒の食生活について検討される 家族そろって食事をするのが大切だと思う |
| 運動 | <ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きな者の割合 児童・生徒の体力 | <ul style="list-style-type: none"> 体育以外に週2回以上運動している 1日に1万歩あるく | <ul style="list-style-type: none"> 自分の成長に運動が必要だと理解している 親が運動の必要性を認識している 一緒に運動する仲間がいる 地域の人々とスポーツで交流できる |
| 心の健康 | <ul style="list-style-type: none"> 将来の夢を持っている者の割合 自分のことを好きな者の割合 学校が楽しいと思う者の割合 不登校の生徒数 | <ul style="list-style-type: none"> いじめたり、いじめられたりしたことがある者の割合 親と会話を持っている子どもの割合 自分の悩みについて人に相談できる | <ul style="list-style-type: none"> いじめがあった時に相談できる人がいる 思春期の子どもへの関わり方について、親が学ぶ機会がある 思春期の悩みについて相談できる窓口がある 種々の悩みについて各専門家の支援が得られる 不登校児が専門的な支援を受けられる |
| 喫煙 | | <ul style="list-style-type: none"> 未成年者の喫煙率 | <ul style="list-style-type: none"> 喫煙の健康への影響を知っている 喫煙をカッコいいと思わない 学校や地域で喫煙について学ぶ機会がある 未成年者がたばこを容易に買うことができない 友達から勧められたときに断ることができる |
| 飲酒 | | <ul style="list-style-type: none"> 未成年者の飲酒率 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭で未成年者の飲酒をさせない 未成年者の飲酒について学ぶ場がある 未成年者が安易にお酒を買えない 飲酒を勧められても断ることができる |
| 歯科保健 | <ul style="list-style-type: none"> 歯のことで困っている者の割合 小学校6年生の平均虫歯数と保有率 高校3年生の歯周疾患の罹患率 | <ul style="list-style-type: none"> 歯磨きの習慣がある おやつの時間を決めている | <ul style="list-style-type: none"> 歯の健康や歯磨きについて学ぶ機会がある おやつについて学ぶ機会がある 適切な食事(おやつを含む)を選べる 検診後、気軽に相談できる歯科医がある |
| 事故対策 | <ul style="list-style-type: none"> 不慮の事故による死亡者数 けがや事故による医療機関の受診者数 水難事故の件数 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭で事故防止対策を実施している | <ul style="list-style-type: none"> 親も児童も事故防止について学ぶ機会がある 児童が命の大切さについて学ぶ機会がある 親が救急蘇生法について学習できる 地域で事故防止の対策(遊具の点検等)を実施している |
| 保健医療 | <ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患児が就学に満足している | <ul style="list-style-type: none"> 通院のための欠席日数 | <ul style="list-style-type: none"> 学校を欠席することなく、通院できる |
| リプロダクティブヘルス | <ul style="list-style-type: none"> 誰かに愛されていると感じる者の割合 10代の妊娠中絶率 10代の性感染症罹患率 | <ul style="list-style-type: none"> 両親を尊敬している児童・生徒の割合 セックスするときには、必ずコンドームを使う者の割合 | <ul style="list-style-type: none"> 赤ん坊と接する機会がある 命の大切さについて学ぶ機会がある 親から妊娠・出産の仕組みを教えられる コンドームの使い方を含む性教育を受ける 性感染症について専門職から教育を受ける |

すくすく乳幼児期 【休養・心の健康】

笑顔がいっぱい
みんなしあわせ!

ここがポイント!

子どもの成長を楽しみ、不安なく育児ができるためには、親子のスキンシップと楽しめる育児ができ、親も子どもとともに育つことが大切だと考えます。

<子育て不安>

☆玖珠町での乳幼児を持つ保護者を対象としたアンケートによれば、図1のように「子育てが楽しい」と答えた者と「子育ては大変」と答えた者の割合はほぼ同じくらいです。また、「どんな時が大変か」という問いに対しては、図2のような回答でした。「病気のとき」が最も大変なことがわかりました。また、「仕事との両立」と答えた者も4割近くいました。

☆子育てを支えてくれる人については、図3のように夫・家族・友人の順になっています。また、保育園との意見交流会でも、『父親の育児参加が母親のストレスを軽減していきます。父親の積極的な育児への参加がとても大切です。』との意見も聞かれています。

☆子どもとスキンシップできてと答えた者は、62.6%でした。
*乳幼児期の子どもをもつ親の労働条件・労働時間の考慮が必要です。毎日の育児の中で、子どもとスキンシップがとれて、親の育児によるストレスを軽くする条件づくりが必要です。また、子どもが病気の時、親が病気の時に、不安なく育児ができる対策が必要です。

<虐待>

☆玖珠町でのアンケートによれば、「言うことをきかない時どうしますか」という問いに対して、「手を出しがち」と答えた者が30.4%であった。また、平成11年度の虐待の件数は図4のとおりです。

*虐待は、家庭内で起こっているもので、発見がにくい現状にあります。虐待の背景には、育児のみでなく、生活苦・夫婦関係・病気などがある場合が多く見られます。

育児を孤立させない対策と、早期に発見するための地域でのネットワークづくりが必要です。

図1 子育ては楽しいか

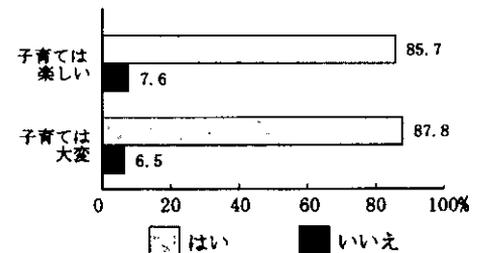


図2 子育てが大変と思う時 (%)

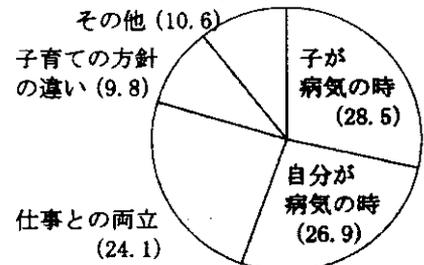


図3 子育てを支えてくれる人 (%)

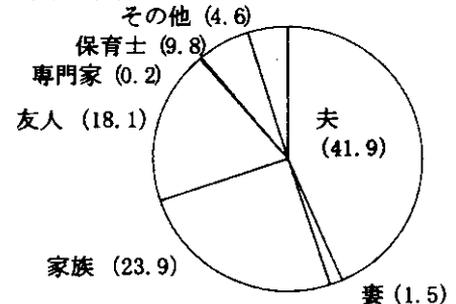
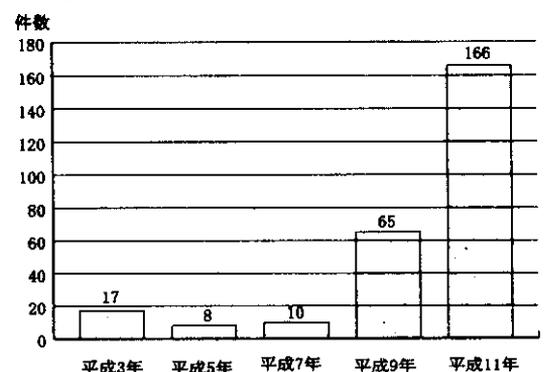


図4 児童虐待件数の年次推移 (大分県)



<みんなで取り組むこと>

◆温かな見守り

子育てで不安や自信をなくさないように、子どものいる家庭を温かな気持ちで見守りましょう。

◆あなたのやさしさが大きな助け

子どもの成長のためには、たくさんの助けが必要です。親が困っているなら、手を貸してください。子育ての不安の多くは、先の見通しが見つからないことから起こります。先輩からの一言で、肩の力を抜くことができるでしょう。



<行政でできること>

◆健診・相談の場での援助

それぞれの場で、育児不安や虐待を発見できる体制づくりをする。(問診リストの検討・研修会への参加・ケース検討会の開催等)

◆虐待防止ネットワークの整備

関係機関・地域社会全体でのネットワークの整備が必要です。

<家庭で取り組むこと>

◆叱り方・ほめ方のバランス

「いけないこと」は小さい頃からしっかりと教えましょう。避けたいことは、「できないこと」を叱ること、責めること。勧めたいのはほめること、認めること。「認めてもらえた」という喜びは自信ややる気となってもどっていきます。

◆愛されていること受け入れられていること

～子どもの心の栄養です～
子どもは深い愛情で「人っていいな」という基本の信頼感が育っていきます。

<地域で取り組むこと>

◆仲間で支える

育児サークルの仲間の中で、いろんな思いを出し合いながら、子育てを考え合いましょう。

◆ボランティアの活動

(母子保健推進員など)

ともに悩み、ともに考え、ともに喜びあいながら、「子育て・親育ち」をしていきたいものです。ボランティアをフルに活用しましょう。

◆保育園の役割

保育士は、よき聞き役として接していきましょう。他の関係機関とネットワークをとりながら、地域の中での保育を目指しましょう。

研究成果の刊行に関する一覧表

書 籍

| 著者名 | 書籍タイトル | 出版社 | 出版地 | 出版年 |
|---------------|--|------------------|-----|------|
| 藤内修二, 岩室紳也 | 新版保健計画策定マニュアル | ライフサイエ ンスセンター | 横 浜 | 2001 |
| 藤内修二 | 地域における「健やか親子 21」の推進 ～みんなですすめる母子保健計画～ | 安川印刷 | 佐 伯 | 2001 |
| 藤内修二 | 地域における「健やか親子 21」推進の現 状と展望 ～ヘルスプロモーションで 母子保健事業を見直す～ | 安川印刷 | 佐 伯 | 2002 |
| 藤内修二 | 地域における「健やか親子 21」の推進 のために ～市町村母子保健計画の見 直しとその推進～ | 安川印刷 | 佐 伯 | 2003 |

雑 誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表雑誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|-------------|---|---------------|---------|-----|------|
| 尾島俊之, 他 | 乳幼児健康診査における問診票の 効果的活用に関する研究 | 域環境保健 福祉研究 | 印刷中 | | 2003 |
| 藤内修二, 他 | 地域における「健やか親子 21」の 推進に関する研究 (第 1 報) - 市 町村母子保健計画の見直し - | 日本公衆衛 生雑誌 | 48 (10) | 616 | 2001 |
| 岩室紳也, 他 | 地域における「健やか親子 21」の 推進に関する研究 (第 2 報) - 思 春期保健評価指標の考え方 | 日本公衆衛 生雑誌 | 48 (10) | 616 | 2001 |
| 藤内修二, 他 | 地域における「健やか親子 21」 の推進に関する研究 (第 3 報) - 市町村の取り組みの実態 - | 日本公衆衛 生雑誌 | 49 (10) | 706 | 2002 |
| 糸数公, 他 | 地域における「健やか親子 21」 の推進に関する研究 (第 4 報) - 母子保健事業における評価指標 についての情報収集の実態 - | 日本公衆衛 生雑誌 | 49 (10) | 705 | 2002 |
| 犬塚君雄, 他 | 地域における「健やか親子 21」 の推進に関する研究 (第 5 報) - 市町村母子保健計画の見直しに おける都道府県型保健所の役割 | 日本公衆衛 生雑誌 | 49 (10) | 706 | 2002 |
| 福島富士子, 他 | 地域における「健やか親子 21」 の推進に関する研究 (第 6 報) - 乳幼児健康診査における問診票 の効果的活用に関する研究 - | 日本公衆衛 生雑誌 | 49 (10) | 705 | 2002 |